

長岡地区納税貯蓄組合連合会 会長賞 最優秀

税金と私たちの選挙

長岡市立三島中学校

三年 塚野 茜

税金は私たちの生活を支える土台である。中学校で配られる教科書や登校するための道路、病院やゴミの処理など、日常生活に欠かせないものには必ずと言っていいほど税金が使われている。毎日の暮らしの中で私たちは気づかないうちに、税金の恩恵をうけているのだ。

では、その税金の使い道を決めるのは誰なのだろうか。それは、選挙で選ばれた代表である。国税は国会議員、地方税は各都道府県や市区町村の代表が話し合い、どこにどれだけ税金を配分するかを決めている。つまり、税金と選挙は切り離せない関係にあるのだ。

さらに私は、選挙そのものが税金によって運営されていることを知った。投票所を作る費用、候補者ポスター掲示板の作成や人件費など、衆議院選挙では六〇〇億円以上、参議院選挙では五〇〇億以上のお金がかかっている。また、それらのほとんどが国民が納めた税金でまかなわれている。つまり、税金があるから選挙ができ、その選挙で選ばれた人が再び税金の使い道を決めるといふ循環が成り立っているのだ。

私は二〇二五年の七月に行われた参議院選挙のニュースを見て、この関係をより強く意識するようになった。

今回の選挙の投票率は約五十八パーセントと前回の参議院選挙よりも高く、十五年ぶりに五十パーセント後半になったと報じられていた。全体としては、税金の使い道について注目の高まった選挙だったのだ。その中で、若い層の投票率が伸び悩んでいるという。自分たちが納めている税金の使い道を人任せにしている人が多いということかもしれない。

また、選挙に行かないということは、自分が納めた税金で作られた仕組みを使わずに捨ててしまうようなこと。自ら国を良くする機会を逃すということは非常にもったいないことだ。だからこそ、もっと選挙に関心をもち、選挙に行くことが大切だと考える。私が将来投票できるようになったときは、選挙に行くことはもちろん、税金をどう活かしてほしいかを考えて一票を入れたいと思う。

税と選挙は国民の権利と義務を結びつける大切な仕組みである。税金を納めることで選挙が成り立ち、選挙で選ばれた代表が税金の使い道を決める。この関係を理解し、自分がその権利を持った一員であるという自覚をもつことが、これからの社会をより良くしていくために必要なことだと考える。

私にできることは、選挙に行くというほんの小さなことかもしれないが、その一票の重みを感じながら、社会に関わっていききたい。皆さんも、税と選挙に関心をもち、今の自分にできることを考え続けてほしい。この、税に支えられている社会の中で。